

NPO法人 口から食べる幸せを守る会

第1回

実技セミナー 概要報告

会期：平成25年7月14日（日）

会場：神奈川県立保健福祉大学



NPO法人 口から食べる幸せを守る会
理事長 小山 珠美

企画者 小山 珠美、芳村 直美
水戸 優子、大石 朋子

実技セミナー事務局 水戸 優子

口から食べる幸せを守る会第1回大会の翌日（7月14日）に、第1回実技セミナーを神奈川県立保健福祉大学（横須賀市）にて開催いたしました。この実技セミナーは、口から食べることが困難な方が口から食べられるようになること、食べ続けられるようになることを支援するために、支援者のスキルをアップするために企画しております。参加者は、これまでも摂食・嚥下のスクリーニング評価や食事援助の経験を持ち、よりスキルを磨きたいという医療従事者を対象としております。

以下に、第1回実技セミナーの概要を報告いたします。

会期：平成25年7月14日（日） 9時20分～12時30分

場所：神奈川県立保健福祉大学 看護実習室

参加者：45名（職種別内訳：医師4名、歯科医師2名、看護師23名、言語聴覚士9名、管理栄養士4名、歯科衛生士2名、理学療法士1名）

（都道府県別内訳：沖縄県10名、宮城県5名、石川県5名、広島県3名、大阪府3名、鹿児島県3名、神奈川県3名、埼玉県2名、宮崎県2名、山梨県2名、岡山県1名、熊本県1名、東京都1名、愛知県1名、富山県1名、千葉県1名、和歌山県1名、順不同）

アドバイザー：14名

氏名	所属	職種
小山 珠美	東名厚木病院	看護師
水戸 優子	神奈川県立保健福祉大学	看護師
安西 秀聡	イムス三芳総合病院	医師
芳村 直美	東名厚木病院	看護師
竹市 美加	JA 広島総合病院	看護師
金 志純	日本赤十字広島看護大学認定看護師教育室	看護師
白坂 誉子	セントマーガレット訪問看護ステーション	看護師
甲斐 明美	東名厚木病院	看護師
田邊 千明	東名厚木病院	言語聴覚士
川端 直子	広島市総合リハビリテーションセンター リハビリテーション病院	看護師
大石 朋子	神奈川県立保健福祉大学	看護師
黄金井 裕	介護老人保健施設さつきの里あつぎ	言語聴覚士
土田 もも子	東名厚木病院	言語聴覚士
一瀬 浩隆	東名厚木病院	歯科医師

オブザーバー：4名 横山信彦（誠愛リハビリテーション病院・医師）
 迫田綾子（日本赤十字広島看護大学・看護師）
 大城清貴（豊見城中央病院・看護師）
 小山碧（NPO 法人口から食べる幸せを守る会・事務局）

会場スタッフ：5名（神奈川県立保健福祉大学教員、ボランティア学生）

後援メーカー：
 株式会社オーラルケア（吸引ブラシ、歯ブラシ提供、展示）
 ラックヘルスケア株式会社（カッピングアウトテーブル展示）
 日清オイリオグループ株式会社（トロミ調整食品提供）
 株式会社大塚製薬工場（嚥下補助ゼリー提供）
 渡辺商事株式会社（パウチのおかゆ、おかず、お茶ゼリー提供）

取材関連：
 株式会社学研メディカル秀潤社
 医歯薬出版株式会社

スケジュール：

時間	スケジュール	担当者
9:20～9:30	オリエンテーション	水戸、芳村
9:30～9:40	商品紹介	メーカー
9:40～10:10	講義 重度左側無視と前頭葉症状を呈した高齢患者への早期経口摂取を目指したアプローチ	小山
10:20～11:30	演習1（スクリーニング評価、口腔ケアとポジショニングを含む）	アドバイザー
11:30～11:55	演習2（食事介助技術のステップアップ ベッド上にて）	アドバイザー
11:55～12:10	演習3（セルフケア拡大に向けたアプローチ 車椅子上にて）	小山、芳村
12:10～12:30	まとめ、アンケート記入	小山、水戸

< 講義風景 >



小山珠美理事長が熱く語っている様子↑



熱心に聞いている参加者の皆さん↑

< 演習風景 >



演習スタート！↑



ポジショニングと脱感作↑



吸引ブラシを用いた口腔ケア↑



スクリーニング評価・水のみテスト↑



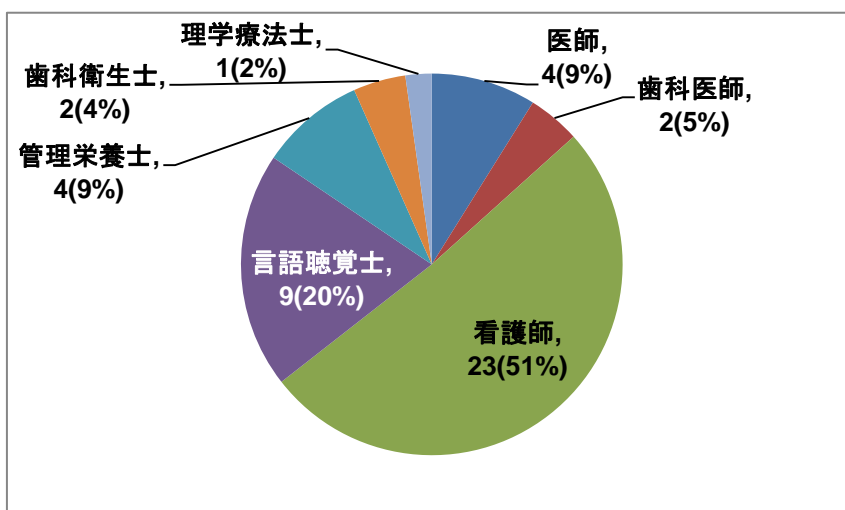
スクリーニング評価・フードテスト↑



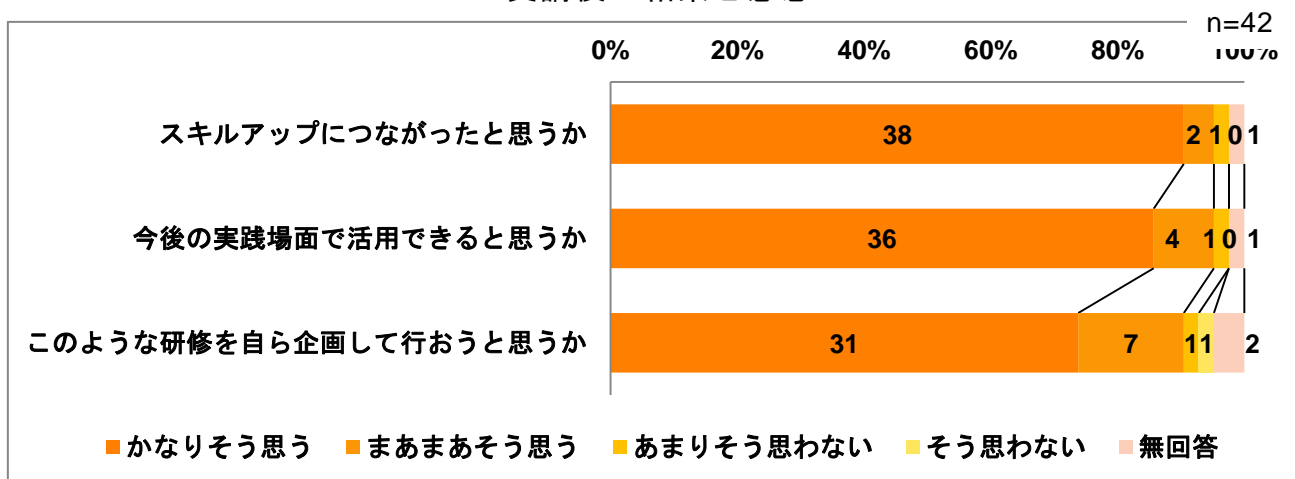
セルフケア拡大に向けてデモ中↑

参加者によるアンケート結果報告

～参加者(45名)内訳～



～受講後の結果と感想～



〈スキルアップについての感想〉

- ・実技としてかなり細かく指導して頂きスプーンの持ち方、スピードなどあまり意識していなかったことまで学べて良かったです。
- ・知らなかったことや、勘違いしていたことがありました。
- ・口腔ケア、食事介助ともにあまり経験がなく、基本からの実習だったので、実用的なスキルアップには至っていないと感じます。

〈今後の実践に関する感想〉

- ・患者様へのスムーズな介助やアプローチを活用していきたいと思います。
- ・施設でかかわっている介護職の方達と一緒に実践していきたいと思います。
- ・日々の指導に役立てたいです。

〈このような研修を自ら企画して行うことに関する感想〉

- ・病棟でも行い、安全な介助ができればいいと思う。
- ・今回学んだ知識と技術を周りのスタッフや関係職種に伝えることで、口から食べられる患者様が增えたら良いと思う。

〈今後のセミナーで取り上げてほしい内容〉

- ・もっと長い時間の実習
- ・重度嚥下障害の治療プログラム
- ・セルフケアの方法
- ・標準的スキル
- ・食形態の選択
- ・認知症患者への援助・さまざまなケーススタディ